



欧陽詢(唐)の九成宮醴泉銘から字を集めて、
倣書(背臨)で書いています。九成宮醴泉銘は
「楷書の極則」と評されている。字形は端正、
タテ長、厳格で、切れ味鋭い筆法、背勢で
直線的である。全体に、上に狭く、下に広い
特徴がある。

とりふ かしょうこ
鳥踏んで花枝動く
外には人もいないのだが、花枝の
動いたのは小鳥が踏んだのであった

(張琦)